

な

ご

み

っ

う

し

ん

発行日：平成30年1月22日（第37号）

発行：島田療育センターはちおうじ

2011年（平成23年）4月1日に、島田療育センターはちおうじは歩みを始めました。それは、東日本大震災の年でした。1年後、あくりるたわしの活動を手伝えることができ、相馬と私の物語が始まりました。そんな物語を紹介します。

所長 小沢 浩

## （5）Be in Voices

2013年6月1日、我々は再び相馬の地に集まった。1年前9人だったメンバーは26人に増えていた。その日には、関西を中心に活動しているアカペラグループBe in Voicesのチャリティーコンサートも行われた。Be in Voicesは、妖怪人間ベムのコーラスや、NHKE テレシャキーンで歌や演奏を担当している。



ボーカルの青山玲子さんは、あくりるたわしを応援する最初のメンバーの9人の中の1人である。

「私、歌手なんです。」

と自己紹介されたときにはピンとはこなかった。

誰かが、

「コンサートを開いてもらったら？」と提案したときには、何も言わずに黙っていた。

私が、「プロをお願いして呼ぶんだったら、きちんとした形で呼ばなければ失礼になる。」

そう語ったときに、青山玲子さんはその重い口を開いた。

「コンサートを相馬で開きたいけど、そのためには、機材や移動費、運搬費などすごい持ち出しになるんです。厳しいんです。」

でも、今年の6月にチャリティーコンサートは相馬で開かれた。

青山さんがつなげてくれたのである。

費用は、Be in Voicesが自分たちで負担してくれた。

ある日、予定していたコンサートが主催者側の都合で突然中止になった。

そのときにその主催者が「申し訳ない！」とコンサートのキャンセル料を

払ってくれた。  
突然入ったお金。そのお金を前にして、  
青山さんがメンバーに提案した。

「私、相馬でコンサート開きたいの！  
みんな、相馬で歌おう！」と。

メンバーからは、

「なぜ今相馬なんだ？」

と反対の意見もあった。

でも、青山さんの熱意にみんなは従った。

ハーモニーは心で奏でるもの。

心が一つにならないと、いいハーモニーは奏でない。

相馬に行くまでの練習は、メンバーの心が一つにならなかったため、どんなに練習してもいいハーモニーは奏でることはできなかった。

でも、相馬の地に立ち、みんなの歓迎を受けてそこで心が一つになった。

「とにかく歌おう」と。

そして行われたコンサート。

相馬からお願いされた曲は二つ。

「ふるさと相馬」と「ふるさと」。

「ふるさと相馬」は相馬の情景が読み込まれた歌。そして唱歌の「ふるさと」。

Be in Voices のメンバーにとっては、勇気のいる曲であった。

被災された方々の心に寄り添うことができるのか。悩んで悩んで悩みぬいたうえで心をこめて歌った。心を伝えた。

「ふるさと相馬」の歌詞の一節。

「朝焼けの鵜の尾崎 灯台の明かりも消えて 今入る大量船 魚市場に弾む声…」

Be in Voices のメンバーの優しく澄んだハーモニーに乗せて歌われた震災前の活気に満ち溢れた市場の情景

に多くの市民が涙した。ただそれは失ったものを悲しむ涙ではなく相馬を思って下さる皆様への感謝の気持ちの涙だったと思う。小幡さんはそう語った。

地元の幼稚園の子供たちとも一緒に歌った。子どもたちの透き通った声とそれをあたたかく包み込む Be in Voices の歌声、そのハーモニーが会場に響いた。



Be in Voices の素敵な歌声を聞きたい方は

[https://www.youtube.com/watch?v=wov4O\\_RgAP4](https://www.youtube.com/watch?v=wov4O_RgAP4)

奇跡がくれた宝物 小沢浩著

クリエイツかもがわ より)

